

## 憎しみから解放してくれるもの

互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。

カインのようであってははいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行いは悪く、兄弟の行いは正しかったからです。

兄弟たち。世があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。

私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。

兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。

キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。

世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。

子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。

I ヨハネ 3：11-18

互いに愛し合うべきであるということは、あなたがたが初めから聞いている教えです。

I ヨハネ 3：11

聖書の中に書いてある、あらゆる命令は二つに要約されます。

「先生。律法の中で、たいせつな戒めはどれですか。」

そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

これがたいせつな第一の戒めです。

『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

マタイ 22：36-40

もし、全身全霊で神様を愛し、自分と同じように他人を愛することができたなら、神様のみこころをすべてに行っていることになるのです。

「愛し合う」、これがイエス様のしてくださったことであり、クリスチャンの特権なのです。

### ①カインの憎しみ

カインのようであってはいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょうか。自分の行いは悪く、兄弟の行いは正しかったからです。

I ヨハネ 3：12

カインは、最初に造られた人間であるアダムとエバの長男でした。彼には、アベルという弟がいました。

ある時期になって、カインは、地の作物から主へのささげ物を持って来たが、アベルもまた彼の羊の初子の中から、それも最上のものを持って来た。主はアベルとそのささげ物とに目を留められた。だが、カインとそのささげ物には目を留められなかった。それで、カインはひどく怒り、顔を伏せた。

創世記 4：3-5

二人の兄弟はそれぞれ神様にささげ物を持ってきました。カインは自分で育てた作物を持ってきました。アベルも自分が飼っていた羊を持って来ましたが、彼は最上のものを持って来たと書いてあります。神様はカインのささげ物に注目することなく、アベルと彼のささげ物に目を留められました。

神様が、ただささげ物だけに目を留められたのではなく、「アベル」と「そのささげ物」に目を留められたことがポイントです。アベルの心と、彼が信仰によってささげた物を神様は喜ばれたのです。

その結果、自分のささげ物が受け入れられなかったカインは怒ります。

そこで、主は、カインに仰せられた。「なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。

あなたが正しく行ったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」

創世記 4：6-7

カインは、怒って顔を伏せました。神様と向き合いたくないということです。神様は「正しければ受け入れられるが、間違っていれば罪が戸口で待ち伏せして、恋い慕っている」と警告します。神様は、カインが正しい心からささげ物をしなかったことをご存知でした。今、

カインの心は罪に支配されそうになっていました。神様は、「その罪に支配されないで、治めるべきだ」と言われます。

しかし、カインは弟アベルに話しかけた。「野に行こうではないか。」そして、ふたりが野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した。

#### 創世記 4：8

結局、カインは神様の警告をきかずに、罪に支配されてアベルを殺してしまいます。先ほどの I ヨハネ 3：12 には、「自分の行いは悪く、兄弟の行いは正しかったから」アベルを殺したとあります。カインは、アベルに嫉妬していたのです。ささげ物のことだけでなく、恐らく長い間アベルの生き方を見て嫉妬していました。それが憎しみになり、殺人になりました。

カインはどうすれば良かったのでしょうか。「罪を治めるべき」と神様が言われたのは、「我慢しなさい」ということではありません。我慢するなら、また憎しみが重なって、同じことが繰り返されたでしょう。

カインがすべきだったのは、自分の嫉妬や憎しみを隠さずに神様に打ち明けることだったと思います。

もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

#### I ヨハネ 1：9

「神様。自分の心には弟に対する嫉妬と、抑えきれない憎しみがありません。助けてください」と神様に頼れば良かったのです。そうすれば、神様が助けてくださったでしょう。そして神様との本当の交わりをもつことができたかもしれません。カインとアベルのささげ物は、日々の、神様との交わりの現れです。アベルは神様を愛していたから良いささげ物ができたのです。カインが嫉妬していたのは、神様とアベルの関係だったのです。望めばカインも神様と良い交わりを持つことができました。それは神様に信頼することによってです。しかしカインは神様に頼るのではなく、顔を伏せて神様から顔をそらしました。

この後、神様に問われたカインは、この殺人を隠そうとします。しかし、それも見抜かれた後、カインは作物を作ることのできない流浪人にならなければいけません。

その時にも、

ああ、あなたはきょう私をこの土地から追い出されたので、私はあなたの顔から隠れ、地上をさまよい歩くさすらい人とならなければなりません。それで、私に出会う者はだれでも、

私を殺すでしょう。

創世記 4：14

カインは最後まで、自分の罪を悔いることなく、「神様のせいであんなった」と言いながら神様から離れ去っていくのです。

このカインは、「悪い者から出た者」と言われています。悪魔の性質がよく分かる代表人物なのです。

神様は「互いに愛し合いなさい」と言われますが、悪魔は真逆です。

憎しみは否定的で、他の人が傷つく事を願い求め、その人に逆らう行動をさせ、最後には殺人に行きつきます。それは悪魔です。

しかし愛は肯定的で、他の人の幸福を願い求め、その人の利益のために行動し、最後には自己犠牲に行きつきます。それはイエス様です。

## ②カインとキリスト、世とクリスチャン

兄弟たち。世があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。

私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。

兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。

キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。

Iヨハネ 3：13-16

このカインとアベルと同じものが、今も世に働いています。カインが悪魔から出た者であったように、この世は悪魔が支配しているので、神を愛する者を世は迫害します。

もし世があなたがたを憎むなら、世はあなたがたよりもわたしを先に憎んだことを知っておきなさい。

もしあながたがこの世のものであったなら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あながたは世のものではなく、かえってわたしが世からあながたを選び出したのです。それで世はあながたを憎むのです。

しもべはその主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。もし人々がわたしを迫害したなら、あながたをも迫害します。もし彼らがわ

たしのことばを守ったなら、あなたがたのことばをも守ります。

ヨハネ 15：18-20

アベルが嫉妬によってカインに殺されたように、イエス様は嫉妬によって民衆に殺されました。そして私たちも、イエス様と親しくなりイエス様に従うなら、同じように迫害に遭います。

彼らは、本当は神様との関係を心の底で欲しているのです。だから嫉妬が起きるのです。しかし、罪を認めて悔い改めるのはプライドが許さないのです。それで、神様と良い関係にある人を憎み、殺してしまおうとするのです。

もし、家族、職場、友人関係でイエス様との関係をまっすぐに証して不当な目に遭うなら、それはイエス様に従っているからです。イエス様との良い関係があるからです。それこそ、他の何にも代えがたいものです。

世が憎むのとは逆に、クリスチャンは兄弟を愛します。

昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなければならない』と言われたのを、あなたがたは聞いています。

しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし』と言うような者は、最高議会議に引き渡されます。また、『ばか者』と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。

マタイ 5：21-22

イエス様は、心の中で人に腹を立てる者は、殺人をしたのと同じことだと言われました。カインやイエス様時代の民衆がそうであったように、心の中の憎しみは殺人と繋がっているのです。

いったい誰が、心の中の憎しみをなくせますか。誰に何をされても腹を立てない人などいません。

ただ、イエス様は違います。イエス様はご自分を殴り、つばを吐く人に抵抗しませんでした。十字架に釘づけにして、遠くから笑う人々のために「父よ。彼らをおゆるしてください」と心から叫ぶことのできたただ一人の人物です。

本来の人間は、このような心をもてません。しかし、このイエス様を信じた人には、神様の霊が与えられるので、イエス様と同じように、愛せない人をも愛する心が与えられていくのです。

兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。

キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。

I ヨハネ 3：15-16

この世界に生きている限り、憎しみは起きるのではないのでしょうか。身近な親や親族、時には友人にさえ容赦のない怒りが沸くことがあります。

しかし、憎しみはもう過ぎ去ったのです。それは、イエス様がすべて背負って死んでくださいました。

罪は、自分のために人を殺します。しかし神の愛は、人の為に自分が犠牲になります。イエス様を知っている人は、その愛が自分のために成されたことを知っているのです。

クリスチャンは、もう世には属していません。悪魔の子ではなくなりました。憎しみのとりこではありません。

神の国に属し、神の子であり、愛を行なう者なのです。

ですから、もし赦せない人がいるならば、正直に神様に打ち明けてください。怒りを告白してください。そして、イエス様が自分のためにいのちを捨てたことを思い返してください。そこにだけ、本当の赦しがあります。

### ③行いと真実をもって愛する

世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。

子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行いと真実をもって愛そうではありませんか。

I ヨハネ 3：17-18

今まで見てきたように、神の愛は一言でいえば「自己犠牲」と呼べます。人のために自分にとって大事なものを犠牲にすることです。その究極がイエス様のいのちです。

ですから、そのイエス様に従う道も「自己犠牲の愛」です。

私たちができる愛は、兄弟に施しをすることだと書かれています。身近な人が何を必要としているかを見て、それを与えることです。これも自己犠牲の愛です。物を上げることもし

れませんし、自分の時間を割く事かもしれない。必要な言葉をかけてあげること……  
要点は、「兄弟の必要のために自分は何ができるか」ということです。方法はそれぞれある  
と思います。ただ、「愛が大事だ」というだけではなく、実際に真心から実践すること、そ  
れが一番大切な事です。

最後に暗証聖句を読みましょう。

愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある  
者はみな神から生まれ、神を知っています。

愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいまし  
た。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物  
としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

I ヨハネ 4：7-10